

題目：日本国内における結婚と家族の地域研究

オーガナイザー：松田茂樹（中京大学現代社会学部）

企画趣旨

わが国では少子高齢化が進行しているが、その状況は全国一様ではない。例えば、少子化現象をみれば、近年は出生率が回復傾向にある地域と従来以上に低迷する地域があらわれるなど地域ごとに異なる様相をみせている。人口移動をみても、若年層の流出等により過疎が進む村がある一方、大都市への人口集中が進行している。ただし、大都市においても、高度経済成長期に開発された団地など局所的に高齢化率が高い場所が存在する。地域経済に目を転じれば、全体が底上げされるような経済成長の時代は終焉した。依然産業の競争力が高く雇用が安定している地域と産業の空洞化や地場産業の衰退に直面する地域の差が鮮明になってきている。

こうした人口構造や産業等の変化は、その地域に住む家族及び地域社会のあり方にも影響を与えるものである。各地域の家族はこの状況に対してどのように適応し、どのような課題を抱えているのだろうか。少子高齢化の時代に、一早く適応した家族や地域はあるのだろうか。家族や地域社会に関する文化は持続しているのだろうか。

本テーマセッションは、特定の地域における家族に関する研究を集めて、人口・社会・経済の構造が大きく変化する時代においてそれぞれの地域においてどのような家族に関わる現象や課題が生じているかを論じることを目的としている。家族の研究には、全国調査によって家族の特徴を明らかにする方法と特定地域を深掘してその地域における家族の特徴や地域性を明らかにする方法があり、いずれも必要なものである。このうち本テーマセッションが対象とするものは特定地域における研究であり、全国平均の視点ではともすれば見逃されてしまうかもしれない、家族に関する現象や政策的課題等を発見することを目指すものである。

公募する報告内容は、特定地域についてなされた家族に関する研究である。テーマは家族現象・課題に関わる幅広いものが対象であるが、研究で得られた知見が当該地域と全国とではどのような差異と共通点があるかという点について示唆が提示されることを望む。質的研究、量的研究、統計分析などの手法の制限はない。各報告の内容をふまえて、討論者を立てる予定である。特定地域における家族を研究する会員による報告を広く募集したい。